五泉南小学校学校だより

南の風

令和６年１１月２９日第９号

・巻頭言
・なかよし集会、読書旬間
・市小学校音楽交歓会
・１２月の予定

子どもの発達を支える生徒指導

校長　若狭　陽一

私が教員になった３０年以上前、特許事務所の方から次のようなお話をいただきました。

※以下の会話で、特許事務所の方はＴ、私はＷです。
Ｔ：先生、子どもの発明工夫展で、全国１位になった作品に「かかとが踏めないくつ」があります。どのようなくつだと思いますか。
Ｗ：かかとを踏むと電気が流れてしびれるとか、針が出てきて痛いとか・・・・。
Ｔ：だから、大人はダメなんですよ。すぐに、そういう発想をしてしまう・・・。
（間）
Ｔ：正解は、かかとにかわいいボンボンが付いたくつです。小学１年生が考えました。かわいいから、大事にかかとをつぶさないで履くのだそうです。

このお話は、私の生徒指導に対する考え方を見直すきっかけとなりました。当時、かかとをつぶしてくつを履く子どもが多く、教員は「かかとをつぶしてくつを履いてはいけません」を連呼するばかりでした。今は、よくないことに対しては当然指導しますが、よくないことに対しても、否定的な言葉を使わないようにしています。例えば、くつの件で言うならば、「かかとをつぶして履いてはいけません」ではなく、「かかとをつぶさないで履きましょう」といった具合です。さらに、よくできたことを誉めることが多くなっています。「今日は、かかとをつぶさないでくつを履いていますね。すごいですね。」という感じです。

当時は、生徒指導全般で、先の「かかとが踏めないくつ」での私の発想のように、「悪いことをしたら罰を与えて正そう」に似た風潮がありました。体罰は当然ありませんでしたが、「罰当番」や「休み時間なし」などの文化がまだあったと記憶しています。

今では、生徒指導の考え方もすっかりと変わり、子どもの発達を支えるために、学校教育活動全体を通じた働き掛けを重視するようになりました。具体的には、子どもへの挨拶、声掛け、励まし、称賛、対話などです。さらに、生徒指導の諸課題の未然防止をねらいとした、意図的・組織的・系統的な教育プログラムを実施することも重視されています。具体的には、いじめ防止教育（正に、今週各学級で実施しています）、ＳＯＳの出し方教育、情報モラル教育などが挙げられます。

最後に、当校の２階教室前廊下には、廊下を歩いてもらうために、写真のような鉢が飾られています。走って、鉢の台にぶつかり鉢を落としてしまわないように、静かに歩かせるための働き掛けです。先の「かかとが踏めないくつ」の小学１年生的な発想をしてくれた当校職員に感謝です。子どもを単に叱るだけでなく、このような働き掛けでお互いの心をほっこりさせる取組はまだまだあると考えています。各ご家庭でも参考にされてください。